

夕陽會報



ライトアップした箱館奉行所と五稜郭タワー

第202号



◇巻頭言◇

夕陽會報に思う

(昭和40年卒)

副会長 杉本征年

日本鯨産協会会長
株式会社杉商社長

企業人生四十数年の私に「夕陽會報の巻頭言」とは一瞬戸惑ったものの、組織の中で生きて来た者として上司の命には従うべしとの思い、さらに前号で繪面副会長は「教員以外の同窓の方々が積極的に参加する同窓会」を唱えており、ガラもなく、経歴もない者ですが甘んじて寄稿することにしました。

これも橋田会長の唱える「チェンジ」か。今後の夕陽會報も表紙の写真や内容が「僻地の数少なくなった子供達の卒業式」「鮭の卵を川に放流する子等」「学校で子供達が飼っている羊の子が生れた話」「おじいちゃんとする運動会」等、暖かく、やさしい夕陽會誌であれば良いと思います。夕陽會各支部の皆さん、教職に就いていない皆さん、積極的に情宣部に寄稿して「皆なでつくる夕陽會誌」に御協力のほど。

今日迄、夕陽會報をよんでいろいろ勉強になりました。前号で前副会長尾畠先生「現状をよしと思つていたり嘆いてばかりでは退歩につながる」。天野先生は「教職であろうと教職でなからうと育てるといふ事はどの職でも同じ」。前幹事長花田先生は「感謝、感謝」とアリガトウの意を重ねて表明しています。

いずれも、全くその通りで、企業経営も現状に甘んじていては競合相手に追い抜かれます。イトーヨーカ堂本社入口には「変化への対応」と大きな看板を掲げています。何事もプラス思考で常に半歩先に出て創意工夫に心血を注がなければなりません。又社員教育は何よりも重要でむずかしい事です。

経営する一人の力は微々たるもので、成長する為には上から下迄団子になって総合力でたたかわなければなりません。人は「人材」にあらず「人財」です。

売買は物ですが人の育成は一人一人「心」がある故にむずかしい事です。「豚もおだてりや木に登る」多くの社員に目を向けて「何かまずい事をやっている者はいないか」ではなく「何か良い事をやっている者はいないか」に目を向けています。八ツほめてニツ叱る。

尾畠、天野先生の教え、心している次第です。花田先生の感謝、感謝、生徒達も会社人もいえる事。「アリガトウという感謝の心」「スマイセンという反省の心」「オカゲサマデという謙虚な心」「ハイ」という素直な言葉「どんな職場であれお互いに助け合つて生きていく上で不可欠です。

あたりまえの事ですがあたりまえの事がなかなか出来ないのが常です。陽會社経営も学校経営も同じだと思います。校長は社長、教頭は専務、先生方は管理職、そして児童、生徒は社員です。

先生方は将来に向つて限らない可能性を持つ児童、生徒と毎日向きあっています。必ずや金の卵を抱いたシシヤ毛が再び生まれ出る事でしょう。大いなる誇りと夢を持ち匍匐前進して下さい。

良くも悪くも仲良く桐花寮で過した仲間達、四十期の皆な、遠い空から見ているであろう心暖き教授達、「アリガトウ、アリガトウ」。

絆固き夕陽會同志の皆さん、今後共、手をつないで「クロスカッピング」で行きましよう。

全国支部幹事長会議

〜新しい時代とむかひついで夕陽会のつらなる発展のため〜

平成二十二年度の全国支部幹事長会議は、八月七日（土）午後二時三十分より折しも気温三十度に迫る猛暑の中、ホテルリソル函館で開催された。この日暑さの中参集したのは、本部役員十六名、全国各支部幹事長二十五名の総計四十一名。

楢山副幹事長の開会の言葉に続き、参加者全員で、恒例の「夕陽賛歌」を斉唱し、大きな歌声が会場に響きわたった。

冒頭の挨拶に立つた橋田会長は、先般の総会において二期目の会長に就任したことを報告した後、七月二十九日にオープンした郷土の函館奉行所を紹介し、「夕陽会は各支部の活動が安定してこそ、全体がレベルアップする。各支部の声を大切にしたいので、今日は忌憚のないご意見を」と述べた。

会はこの後、議長に青柳史匡副会長、天野哲征副会長を選出し、議事に入った。最初に橋田会長が母校北海道教育大学函館校の現状と課題について説明。本年度の学生の就職状況については、新課程への移行を受けて、民間企業への就職が大半であるが、人間地域科学課程を中心に就職希望者も依然八十人前後おり、夕陽会として、さらなる指導体制が必要で

あると述べた。また函館校における二学部構想も現在進行中であることを明らかにした。

引き続き、土谷幹事長および各部部长より、事務局および各専門部からの取組状況の報告や連絡依頼事項について説明があった。また土谷幹事長より、来年度札幌市で開催される本部懇親会に各支部より多くの会員が参加されるようお願いがあった。

次に各支部からの活動状況の報告に入った。時間の関係で、本年度は「若い世代への勧誘をどう進めるか。」「教職外会員の勧誘をどう進めるか。」の二点に絞って報告が行われた。首都圏支部からは関東各県にまたがっていた支部を一つにし、また採用試験の際事前に面接練習をしているとの報告が、また帯広市・函館市・石狩支部からは、民間企業の会員を役員にしたり、懇親会への参加を呼びかける等の働き掛けをしているとの報告があった。また、函館市支部では地域貢献として新しくできた函館奉行所へ車いす二台を寄贈したことなども紹介され、各支部の幅広い活動について交流する有意義な時間をもつことができた。

二十一世紀版「開学の精神」の書を寄贈

この度、夕陽会本部は函館校の開学の精神「土地墾闢」「人民蕃殖」の書を母校に寄贈しました。平成十八年に課程改組され新課程の第一回卒業生がこの春に巣立ったのを機に、人間地域科学課程の教育理念の実現とともに、学生諸氏が高い志の涵養と崇高な理念を追求する指標として、学生の目に触れる校舎内に展示してもらおうと考えました。

寄贈式は、十一月三十日に大学側及び夕陽会役員の出席のもと、副学長室において執り行われ、橋田恭一夕陽会会長から鷹澤好博副学長に書額と目録を手渡しました。揮毫は、夕陽会会員である書家 安保勝順（号は天寿）氏（昭和四十四年卒業）によるものです。

寄贈式では、揮毫者が本学卒業生でもあり、同窓生の作品が母校に展示されることは、本校にとって有意義であり、また、学生との対話を重視してオープンな雰囲気改修し毎週月曜日に学生に開放している副学長室に展示することにより、書とおして本学教職員と学生が未来を語り合う指標として教育的な活用を図りたいとの謝辞をいただきました。



書額「土地墾闢」「人民蕃殖」 安保 勝順 揮毫 全紙（160×90cm）

会務報告



幹事長

土谷 敬
(昭和54年卒)

《一般会務》

7・12 本部会報201号を発行する。

24 函館地区教採対策講座(過年度卒対象)を開催する。(函館)

27 函館市支部の函館奉行所への車子寄贈式に橋田会長が出席する。(函館)

31 胆振地区教採対策講座(過年度卒対象)を開催する。(伊達) 渡島・檜山・後志地区教採対策講座(過年度卒対象)を開催する。(熊石)

8・7 全国支部幹事長会議を開催する。(函館)

15 鷹澤副学長と橋田会長、土谷幹事長が懇談する。(函館)

9・15 鷹澤副学長と橋田会長、土谷幹事長が懇談する。(函館)

25 五校同窓会長・理事長会議に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(岩見沢)

10・7 鷹澤副学長と橋田会長、土谷幹事長が懇談する。(函館)

11・12 第1回本部役員会を開催する。第9回夕陽書道展実行委員会を開催する。秋の叙勲、受賞に祝意を表す。北海道教育大学と5分校同窓会長が懇談する。(札幌)

8・8 《支部総会・懇親会・同期会・個展等》昭和39年卒同期会が開催される。(函館)

11 「第39回朝玄書道云展」(中村朝山昭和30年II卒)がポーニデパートで開催される。(函館)

21 鶴陵会渡島支部総会に橋田会長が出席する。(函館)

6・5 昭和38年II類卒同期会が開催される。(函館)

9 昭和42年卒同期会が開催される。(札幌)

17 昭和35年II類卒同期会が開催される。(函館)

18 昭和28年卒同期会が開催される。(函館)

26 高等学校支部総会に橋田会長が出席する。(函館)

2 北二師予科卒桐の会同期会が開催される。(函館)

10・1 函館市役所同窓会に橋田会長が出席する。(函館)

9 夕陽指導主事等会懇親会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(札幌)

11・6 道央ブロック会議に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(千歳)

12・3 道東ブロック会議に天野副会長が出席する。(帯広)

4 道北ブロック会議に青柳副会長が出席する。(旭川)

＊瑞宝双光章

- 小林 隆 氏 昭和27年卒
- 札幌市豊平区西岡4の7の1の43の308
- 沢田 三尾 氏 昭和31年卒
- 函館市湯川町3の40の6

＊函館市文化団体協議会 白鳳章

- 布施谷信子 氏 昭和32年卒
- 函館市柏木町11の24

＊北海道教育功績者表彰

- 藤川 隆 氏 昭和48年卒
- 函館市立八幡小学校長
- 能戸 誠一 氏 昭和48年卒
- 北斗市立上磯中学校長
- 山北 実 氏 昭和48年卒
- 江差町立江差小学校長
- 浪岡 康二 氏 昭和48年卒
- 北見市立中央小学校長

＊文部科学大臣表彰教育者表彰

- 高橋 裕 氏 昭和48年卒
- 北海道手稲養護学校長

受賞(章)おめでとーございませう



平成22年度版会員名簿

配布中

会員名簿平成二十二年版完成し、配布中です。

会員名簿の訂正

- ▼表紙の次ページ 表紙絵のタイトル 誤「夕陽記念館」 正「函館元町カトリック教会」
- ▼p18 高等学校支部 支部長 誤「日向 稔 函館市 市立函館高長 正「穴水 正 札幌市 有朋高長」

0138(52)0099 S49
011(773)8200 S48

支部の歴史をふりかえって



渡島支部の歴史を振り返って

渡島支部長 小林基英
(昭和49年卒 七飯町立藤城小学校長)

近年の夕陽会渡島支部の活動は、五月の第二土曜日に「夕陽会渡島支部 総会・懇親会」を開催し、六月第三土曜日の「夕陽会本部総会・懇親会」への参加要請ととりまとめ、七月第三金曜日に「第一回支会長・幹事長会議」を開催、翌年二月の第二土曜日には、「第二回支会長・幹事長会議」「夕陽会渡島支部 勇退者激励・感謝の会」を開催する、といった流れになっています。

渡島支部総会は、支部長あいさつに始まり、来賓祝辞と続きます。ご来賓として夕陽会本部より会長または幹事長にお越しいただき、ご祝辞をいただいております。お話の中には、夕陽会本部についてのことや、大学の現状を含めてお話しただけなので、普段あまり接触のない大学のことについては、大変興味深い内容となります。次いで、議長を選出し、報告事項、協議事項と進んでいきます。協議事項では、「運営方針および事業推進の方針」「夕陽会渡島支部事業計画」「夕陽会退職者会員制度」「会計予算」「夕陽会費の納入について」「会報 夕陽渡島の発行計画」「各支会提出議案」等、年度の渡島支部活動の全体について提案し、協議していただきます。その後、役員の変更を行い、新旧役員あいさつ議長解任、連絡事項となり閉会します。

総会後の懇親会は、新会員歓迎会を兼ねて開催しています。恒例になった「夕陽賛歌」の斉唱で始まり、新役員紹介、主催者あいさつ、そして、ご祝辞をいただき、来賓紹介、祝詞・祝電披露、祝杯となります。祝宴では、新会員の皆さんに自己紹介をしてもらい、これも恒例となりました「大抽選会」へと続いていきます。最後に教育長様に乾杯の音頭をとっていただき閉会となります。

渡島支部勇退者激励・感謝の会は、ご勇退される会員の皆様に、これまでの長年にわたる多大なご尽力に対し感謝申し上げるとともに、これからも充実した日々を送られますようにご祈念申し上げ、感謝状並びに記念品を贈呈させていただきました。おり、「勇退者の横顔と足跡」を作成させていただいております。

この「夕陽会渡島支部 総会・懇親会」が二〇〇名をこえる参加者を経て盛大に開催できるようになったのも、一連の流れが確立できたのも、支部の礎を築いていただきました諸先輩のご苦労があったればこそであります。そのご労苦の一端を紹介したいと思います。

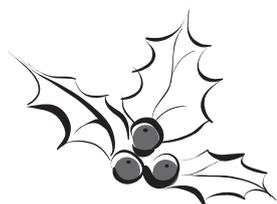
夕陽会渡島支部の発足時や黎明期は、五稜郭のすきやき店で総会を開いていたそうです。総勢三〇名程度の参加者で、そのほとんどが校長や教頭という状況が続いていました。その後、今ではスポーツクラブになっています。ロイヤル柏木に会場を移し、一〇〇名以上の参加者となりました。各市町村の教育長様に総会の案内状をお送りするようになっていきました。今では恒例になっています。大抽選会は、当時ビンゴゲームだったそうです。ビンゴゲームの賞品は、自転車、米三〇キログラム、ビール一ダース等がそろえられていました。そのビンゴゲームで米三〇キログラムを当てた方が、「独身・若い教員・遠いところから参加した人」という条件で米をプレゼントしたそうです。幸運にもプレゼントされた教員は長万部の先生だったそうです。

支会長・幹事長会議は、年三〜四回開いていました。内容は、本部総会のことについて渡島各支会へ伝えること、夕陽会費の納入についてのこと、渡島支部の総会のこと、勇退者激励・感謝の会のことなどが、主なことだったようです。会議に出席するために函館にこられる遠い地域の支会長・幹事長は、半日がかりの取組となつたはず。しかし、函館の空気にも触れりフレッシュできたのかもしれません。

夕陽会渡島支部の会員名簿をつくるのも大変なご苦労があったようです。休みを利用して、職員録の中から会員を探り、渡島管内の名簿を完成させました。名簿の完成によって、渡島各支会では、会員の存在をお互いに確認しあい、夕陽会の絆をさらに深めていったのではないのでしょうか。組織がしっかりしてくると、

渡島支部の名前入りの定規やボールペン等を会員に配ることもするようになってきました。会報については、その発行当時、いつに仕事を引き受けてくださった方がおいでになり、現在の会報の基礎を築いていただいたとのことです。渡島各支会の総会に渡島支部の役員を招き、懇親を深めることも行われていました。武勇退者激励・感謝の会は、函館五稜郭の稜雲亭で行われていたそうです。その後、参加者が増え、会場を湯ノ川に移しました。勇退者のプロフィールをつくり、渡島支部の名前の入った湯飲み茶碗を贈っていたそうです。経費のことも考えると、一釜一〇〇〇個の湯飲み茶碗を作り、それをストックしておき、その年度の勇退者にお贈りするといった工夫がなされてきました。勇退者のいる支会からは、催し物が企画され、感謝の意や激励の意を表すとともに会を盛りあげていったそうです。

夕陽会渡島の歴史の一端を紹介させていただきました。先輩諸氏が残された業績の大きさに驚くばかりです。ことを起こしていく時のご苦労は、計り知れないものがあります。そのことを忘れることなく、これからの夕陽会渡島支部の活動を続けていかなばならないと思います。



ご冥福をお祈りいたします

夕陽讃歌作詞の 佐藤 任氏

北海道教育大学夕陽会創立80周年記念事業の一環として、平成10年8月8日「夕陽会旗」の作成と「夕陽讃歌」を制定しました。

夕陽讃歌は、会員相互の絆をより強めるために同窓会のアイデンティティーであり、よりどころである「夕陽の心」を「讃歌」として誕生させたものです。

佐藤氏の思いのこもった讃歌であり、今後も歌い継がれていきます。佐藤 任氏のご冥福を心よりお祈りいたします。

夕陽会創立80周年記念制定歌

夕陽讃歌

佐藤 任 作詞(S16卒)
寺中 哲二 作曲(S31卒)

洋々と ♩=104 ぐらい

1. た く ほ く の い あ つ き お も い
2. ほ く と な く せ づ あ た か く か が や
3. た た つ と な い く よ こ つ れ ん ば

に き う つ ひ ゆ ど と き い す こ し の わ か も の た ち
え が く ー さ や ー け ー

元気よく

ふ し ル は わ ん を め ぐ り わ れ ら い ま た か ら か に う た
か め だ の も り に わ れ ら い ま た た か ら か に う た
き た の ー だ い ち に わ れ ら い ま た た か ら か に う た

わ ん あ ー あ ー は ぐ く む い の ち せ き
わ ん あ あ ー あ ー と わ な る い の の ち せ き
わ ん あ ー あ ー は は な る い の の ち せ き

よ う じ ゃ う と と こ こ し し え え に に せ せ せ き よ う じ ゃ う と と こ こ し し え え に に

夕陽讃歌

佐藤 任 作詞

一 拓北の熱き想いに
集い来し若もの達よ
巴湾をめぐり
われら今
高らかに歌わん
ありあけ 青む生命
夕陽とこしえに
夕陽とこしえに

二 北斗星 高く輝き
ひとすしの祈り 滌けし
龜田の森に
われら 今
高らかに歌わん
ありあけ 永遠なる生命
夕陽とこしえに
夕陽とこしえに

三 墨なづく 横津連峰
雪山に 嶺く シュプール
北の大地に
われら 今
高らかに歌わん
ありあけ 母なる生命
夕陽とこしえに
夕陽とこしえに

平成十年八月八日 制定



北方教育資料館の活用を探る

北海道教育大学函館校教授

北海道教育大学函館校地域連携センター長 根本直樹

第三十二回「全国国立大学生涯学習系センター研究協議会」が十月二十二日と二十三日の両日、和歌山で開催されました。担当校が和歌山大学であり、学長の挨拶の中で、「和歌山大学は、地域を支える大学であり、地域から支えられる大学を目指しており、大学は生涯学習社会の一機関でもある」との言葉が印象に残りました。

来賓の挨拶で文部科学省生涯学習政策局局長は、最初に「大学が地域にとってどんな存在か」という古くて新しい問いをしました。さらに、新しい公共の構築が生涯学習社会の大きな課題であり、行政依存からの脱却を求められていることを訴えられました。そのためにも、市民による課題解決が必要であり、時代の変化のなかでの生涯学習とは、地域づくりに貢献する人材づくりが命題であることが理解できました。

北海道教育大学は、これらの窓口として「学校・地域教育研究支援センター」を設け生涯学習・地域連携部門をセンターの一部門として位置づけています。函館校においては、これらと連動する組織として「地域連携センター」があり、教育連携部門と地域連携部門に大きく分けて活動を行っています。先の研究協議会の来年度の担当校として北海道教育大

学が担うことが決まり札幌市で開催されることになりました。

さて、和歌山大学の組織での生涯学習センターの位置づけは、「地域創造支援機構 地域連携・生涯学習センター」となっています。単体としての「生涯学習教育研究センター」が多くの大学でみられる組織名です。最近の行政改革の影響か多機能化が進んでいることの実例、だとも理解できます。しかしながら、地域連携と生涯学習センターとは関係の深い機能体であることも理解できます。

前置きが長くなりました。本会報の一九二号の巻頭言で前会長の川島先生の「夕陽記念館の改修を喜ぶ」が掲載されています。全体的な論調は、建物自体の性格もありますが、展示内容も含めて「記憶装置」の有益性を表現されていたと思います。このことは第一義に大切な要件だとも理解しています。しかしながら、函館校は教員養成校の記憶装置だけではこれからの存在の意味を説明しにくい状況になってきました。

立場の異なる市民の方々との懇談で函館校の新しい課程が解りにくいのご意見を多数いただいています。広報も以前にまして内容の質、量とも良くなっています。しかしながら、市民にご理解をいただく方法は、大学と地域との関係性を

構築する実践によることが大切だとも肝に銘じています。前に紹介しました「大学が地域にとってどんな存在か」を実践によって明らかにしないかぎり市民の理解を得ることは難しいのではないのでしょうか。

ここに窓口としての象徴的な空間が必要になってきたのです。函館校の地域連携センターでは、このような経緯から「北方教育資料館（夕陽記念館）」の内部整備の準備作業に昨年度から入りしました。もちろん夕陽会の役員の方々との意見交換を踏まえて行っているところです。展示室の現況は、第一展示室・教育の歴史、第二展示室・師範学校から教育大学、第三展示室・夕陽の芸術、第四展示室・夕陽の足跡となっています。

この現況を変える方針は、「教育資料館は北海道における教育の歴史に関する資料と夕陽会の歴史、作品の保存・展示を目的に整備がなされたが、これまで静的だった教育資料館を本学の教育センターと位置づけ、教育関係部門との関係性をもつことにより教育大での諸活動を集約化し情報発信できる拠点づくりを目指す。」とし、まち（市民・歴史・文化）と教育大をつなぐ地域交流・連携の拠点と位置づけたいと考えているのです。

この方針は三つの具体的な場を構想しています。一、教育大の人的資源である教員・学生・夕陽会とんぼコラボレーションの形成の場です。夕陽会との交流では、会員の作品発表や本学の実践活動との協働・支援を考えています。個別化している学生の教育実践の連携や教員志望の学

生への支援を強化していきたいとも考えています。二、ミュージアムの理念による研究・教育活動の実践の場です。これまでの教育大と夕陽会の歴史展示とともに、教育領域における多面的な研究が求められているのは言うまでも無いことと思われまます。三、アウトプットとしての政策提案・地域貢献・教員の育成の場です。現在も実践している放課後の教育ボランティア活動などの学校教育支援事業の企画・実践。本部の生涯学習・地域連携部門の事業との連携。学内の教員や学生への支援要請や相談業務の窓口の一元化などを構想しています。

和歌山大学の「地域を支える大学であり、地域から支えられる大学」を目指す姿勢には共感します。私見ですが、大学は地域課題について行政や市民との協働の実践が求められているとともに、大学の課題についても地域とともに解決していく姿勢も大切なのではないかと考えています。「大学が地域にとってどんな存在か」とは大学自身が、課題解決の対象となることも含まれるのではないのでしょうか。

この北方教育資料館の内部整備についてもこれからの課題です。どうぞ夕陽会の支援によってこの課題が解決できますようお願いいたします。この課題解決が函館校のひとつの物語りになることを願っています。



現場で学ぶ 教育支援ボランティア

北海道教育大学函館校准教授
北海道教育大学函館校地域連携センター員

五十嵐 靖夫

文部科学省は特別支援教育体制を推進するために平成十五・十六年に特別支援教育推進体制モデル事業、平成十七年に特別支援教育体制推進事業を全都道府県に委嘱し体制整備を進めています。都道府県教育委員会担当者からは、支援に直接携わる人材の不足が指摘されています。人材確保については、多くの自治体が工夫を凝らしており、学校支援ボランティアの活用も広がっています。

学校支援ボランティアの派遣は、本学においても地域連携センターの教育連携事業として、平成十九年度から教育支援ボランティアを実施しています。函館市や北斗市などの近隣自治体と協力協定を結び、教育支援ボランティアを学校へ派遣し、教育活動を支援することを通して、地域の教育の振興と充実に貢献したいと考えています。また、これらの取り組みを通して、学生のボランティア意識の向上や地域連携、社会貢献に対する意識の高揚を図るとともに、教職に求められる資質・能力の向上を願っています。

平成二十一年度に本学の教育支援ボランティアとして派遣した学生は五十八名、協力学校として学生ボランティアを受け入れていただいた幼稚園、小学校、中学校、高等学校は四十校でした。毎年、事業終了後には協力学校とボランティア学生へのアンケートを実施しています。本稿では、平成二十一年度のアンケート結

果から、本学の教育支援ボランティアの現状について紹介したいと思います。

一 協力学校について

① 学校規模とボランティアの要請理由
児童・生徒数の多い学校からの学校支援ボランティアの要請が多いのではないかと思われましたが、アンケート結果からは、学校の規模が要請数に影響していないことがわかりました。「個に応じた指導の充実」や「きめ細やかな指導」という内容の回答が多く見られたことから、学校側では、一人ひとりの児童・生徒に対応していきたいと考えていると思われれます。

② ボランティアの活動内容

特別な支援を要する児童の増加に伴う人員不足や、困り感をもつ子どもへの支援のため、学生ボランティアの約九割が通常学級で活動を行っていました。主な活動内容も学習時の補助が九割以上となっています。

③ 児童生徒の変化

学生ボランティアの派遣により、児童生徒に変化があったという回答は、小学校、中学校で八割以上でした。具体的な変化の内容としては、小学校、中学校ともに特別な支援を必要とする対象児の変化よりも「学級全体の学習

意欲の向上」や「学級で、学校支援ボランティアが来るのを楽しみにしている」など学級に変化があったという回答が多く見られました。

二 ボランティア学生について

① 参加理由

学校支援ボランティアへの学年ごとの参加数を調べると、四年生の参加が多く見られました。参加理由のほとんどが「将来のため」であることから、教員を目指す上で、現場で教育活動を体験したいためであると考えられます。

② 学校で学んだこと

教育支援ボランティアに参加して、学校で学んだことについて「教員としての自覚をもつこと」「学級経営」など教員に関する知識や経験について回答した学生が五割でした。また「児童生徒の気持ちに寄りそって行動する」など子どもの理解について回答した学生も四割以上であり、学生にとって貴重な経験となっていることがわかります。

③ 教員志望への変化

学校でのボランティア活動を経験して、教員志望が強くなったと回答した学生が三割以上でしたが、教員志望の学生が志望をやめたという回答は見られませんでした。また、小学校でのボランティアを行ったことで、小学校の教員免許も取りたいと思ったという学生もいたことから、教師としての具体的なイメージをもてるようになり、教員志望への意識を高めるなどの影響があるといえます。

④ ボランティア活動の中で困ったこと
ごく一部の学生から「担任の先生方が学生ボランティアが配属されていることを知らされていなかった」「先生と話しをする時間がなく、児童の実態や先生の教育方針などもつかみにくい」といった回答もありました。

三 まとめ

アンケート調査の結果から、学校支援ボランティアが、学生にとつて実際の教育現場において、子どもや教員との関わり、子どもとの接し方や学級経営の方法、指導方法を学ぶことができる意義のある活動となっていると思われます。今後多くの学校のご理解とご協力をお願いし、教育支援ボランティア活動を充実させたいと思っています。





夕陽バスケットボールOB会「海峽クラブ」創設六十五周年 函教大バスケットボール部創部八十周年

海峽クラブ会長 瀧本剛夫
(昭和34年卒)

■夕陽バスケットを祝う

本年、平成二十二年、我、夕陽バスケットボールOB会「海峽クラブ」は、創設六十五周年・創立二十周年を迎えました。併せて、母校、函館校バスケットボール部が創部八十周年の記念する年となりました。これもひとえに、母校バスケットボール部員並びにOB、すなわち海峽クラブ会員のバスケットボールにかける情熱とたゆまぬ努力の証であり、函館校並びに夕陽会はじめ関係各位のご理解とご支援の賜と深く感謝を申し上げます。

この記念すべき年に当たり、海峽クラブでは周年記念事業を企画し、今夏、会員と現役が集い、ささやかではありますがお祝いをしました。

■夕陽バスケットの歩み

北海道教育大学函館校バスケットボール部OB会(卒業生で組織)「海峽クラブ」は、先輩諸氏の努力により平成元年に設立され、本年、設立二十周年を迎えました。設立以来、二年に一度の総会・懇親会の開催や会報の発行、現役学生への支援・交流、チーム「海峽クラブ」への協力・支援等の活動を継続してきました。また、平成十六年より、函館地区中学校男子新人大会上位チームによる「海峽クラブカップ」を開催し、さらに、平成二十年度からは、青森市の強豪校を招待し、競技力の向上や青少年の健全育成など、

地区バスケットボールの充実・発展にも貢献してきました。

また、チーム「海峽クラブ」は、昭和二十一年、母校卒業生により、戦前の「籠球協会」から「海峽クラブ」へと名称を改め、戦後いち早く始動し、本年、創設六十五周年を迎えました。創設当初から、函館地区バスケットボール協会連盟)の運営や各種大会開催の中核として活動するとともに、チームとして、函館

地区はもとより全道・全国大会において活躍しました。当然、教員主体のチームでありましたが、当初は「実業団」(旧新川小一校の教員のみで構成)で活躍し、全国大会で実力を発揮したことは、今日までも「武勇伝」として語り継がれています。その後、全道大会への参加や全道教職員大会の主力メンバーとして活躍する一方、函館地区一般大会においては、常に上位に位置し現在に至っております。しかし、近年は、卒業生の地元出身者の減少や教員採用状況の変化により、チームの置かれていた状況は厳しく、関係者に協力していただきながら、地区大会に参加しているのが現状です。現在、

全道、全国には、様々な職業で活躍している会員があり、特に、教員の立場で指導者、審判、現役選手として活躍している会員が多いことを、大変嬉しく思います。一方、「母校籠球」バスケットボール部」は、昭和六年に正式に創部となり、

(「函館師範学校校友会誌」による)、戦前・戦後と二度に渡って全国大会準優勝(師範学校部)を成し遂げ、輝かしい歴史が始まりました。その後、校名が北海道学芸大学・教育大学函館分校から教育大学函館校と変わりましたが、現役諸君のたゆまぬ努力と歴代顧問教官の指導、OBの支援により、本年、創部八十周年を迎えることとなりました。

■周年記念事業を開催

本年八月七日、会員(OB)と現役部員が一堂に会し、先輩諸氏の努力と偉業を讃えるとともに、共にバスケットボールを追いかけた仲間との青春時代を振り返り、現役・海峽の今後ますますの活躍と発展を願い、ささやかではありますが「周年記念事業」を行いました。

当日午前、校舎見学と合わせ、「夕陽記念館」を見学しました。昭和四十年代前半以前の卒業生にとっては懐かしい校舎であり、学生時代や寮生活の話題



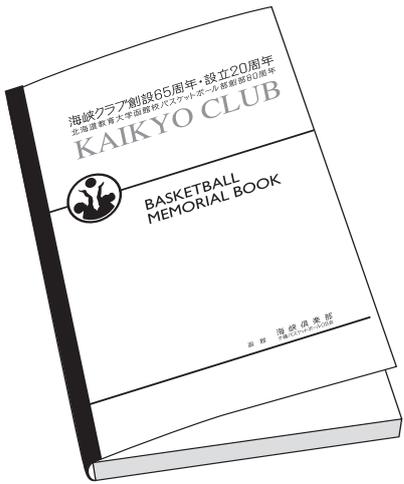
が飛び出してきました。

朝食はもちろん「紅葉軒」へ。事前に予約をしていたのですが、直前に「閉店」とのこと。残念！「おぼちゃん」との楽しい一時を過ごしました。※詳細は別掲。午後、いよいよお楽しみ「海峽（OB）VS現役（学生）親睦試合」。海峽会員の懐かしい顔が続々体育館に集結し、試合が始まりました。七十歳代の大先輩から、新卒の若い会員まで二十数名により「往年のプレイ」をするのですが、結果はそれなりに、楽しい一時を過ごしました。遠くは、愛知県や岩手県からも駆けつけ、大いに盛り上がりました。

夜、市内ホテルで「周年記念祝賀会」を開きました。遠くは本州から、道内は札幌や日高からも駆けつけ、OB三十四名、現役学生八名（二十歳以上）に元顧問の中村幹夫先生を迎え、盛大に行われました。会場の一面には、昭和初期の試合の写真や戦後のスコアブック、昭和五十年代から平成の「海峽」のユニフォームが展示され、話題に花が……。また、「写真で蘇る八十年の歩み」が大型スクリーンに映し出されると、往年の名・迷プレイヤーが次々と登場し会場を沸かせていました。年代を超えてOB同士や現役との交流に盛り上がり、二次会で深夜までバスケット談義に青春を謳歌した一日でした。

■周年記念誌「海峽」を発刊

このたびの周年事業に当たり、海峽クラブと函館校バスケットボール部の歩みを記録に残すこととしました。本会として初めての試みであり、短期間での準備のため、満足できる内容とはいきませんでした。が、函館地区バスケットボール協会のご協力や会員からの写真の提供等に



より、祝賀会当日に何とか発刊できました。内容は、戦前、戦後、昭和五、六十年代、平成の四部構成とし、戦績などを年表とし、貴重な写真や思い出の寄稿文、座談会などです。会員、現役学生のみへの配付としましたが、夕陽会に寄贈させていただきます。記念館で閲覧できますので、ご一読され、ご感想などお寄せいただければ幸いです。

■「夕陽―海峽とこしえに……」

時代や校名が変わっても、会員と現役の皆さんが健康で、バスケットボールにかける情熱をいつまでも持ち続け、何らかの形でいつまでもバスケットボールに関わっていくことを願っております。終わりになりますが、このたびの「記念誌」の発刊に当たり、援助をいただきました「夕陽会」並びに関係各位にお礼を申し上げます。



「紅葉軒」惜しまれて閉店！

「紅葉軒」を懐かしむ会世話人 天野 哲 征 (昭和42年卒)



（昭和四十年代以降、昭和年代卒業の夕陽会員の皆さんで、この「紅葉軒」〈会報一九一号表紙に店舗写真〉にお世話にならなかつた人は、皆無ではないでしょうか。当時はとにかく「紅葉軒」。さて、昨今の学生の食事、特に昼食事情は、学生を取り巻く状況の変化により、多様化してきているようです。もちろん「学食」（学生食堂）もその選択肢の一つでしょうが、大学付近には唯一「紅葉軒」のみが燦然と存在していました。私事ですが、入学当時から卒業まで、

ただだけ「紅葉軒」に世話になったかわかりません。当時は、金はないし、部活動で空腹だし、さらに食べ盛りの苦学生。毎日のように入り浸りでした。私ほどでなくとも、「紅葉軒―命」という学生はどれほどいたか。ここに、もう既に現職の教員を退職している多くの会員並びに現職で様々な分野で活躍している会員の皆さんに、「紅葉軒―閉店」をご報告いたします。「紅葉軒」は、来年で開店五十周年を迎えるとのことでした。私、退職後時々お邪魔しては、お母さんとおしゃべりを

していましたが、今年の春、「わしも年取ったけど、来年までは続けるよ。父さんのためにも……」親父さんが亡くなって何年経つかな？

八月、バスケット部「海峽クラブ」の集まりで、美味しい焼きそばを楽しみにしていたのですが、「年には勝てないわ」とお母さん、弱気の言葉。残念。バスケット仲間と暑い夏、用意してくれた冷たい麦茶で「お疲れ様でした」と乾杯しました。

（エピソード①）夫婦とも若く元気な頃―S40年代―店のカウンターの間に、学生と一緒に花見の写真が宝物として……

（エピソード②）「暖簾」の歴史―現在のものは四代目とのこと。今は初代は無く、二代目が古くなった平成に、お世話になった卒業生有志が三代目を寄贈。これはお母さんが持つて行くとのこと。現在の四代目を夕陽会でいただきました。

記念館に永久保存としたいのですが……（エピソード③）お母さん、来賓―平成十九年、夕陽会九十周年記念祝賀会に出席。「わし、何、着て行ぐべ。」会場で紹介した瞬間、二会場で割れんばかりの拍手。その後お母さんは、あいさつの嵐に遭っていました。

ご夫妻のお人柄に、多くの会員、当時学生が、ご迷惑をかけ、お世話になりました。話題はまだまだつきませんが、どうかいつまでもお元気でお過ごしください。ありがとうございました。

お邪魔しては、お母さんとおしゃべりを

第9回夕陽書道展に向けて

文化部長 中村吉秀
(昭和54年卒 亀尾小中学校長)

昭和53年に第1回夕陽書道展を開催してから、第9回を迎えることになりました。

そのつど、感動を累積し、書をもって心の交流を深め、夕陽のつながりを広げてまいりました。

各地で書活動をされている会員はもとより、書を始められた方々にも、是非この機会に出品をお願いします。

第9回 夕陽書道展

期 日 平成23年9月17日(土)～9月22日(木)

会 場 函館市芸術ホールギャラリー

◇問い合わせ先

夕陽書道展実行委員長 佐藤洋子(石蘭)

☎0138-58-2525 (昭和52年卒 石崎小学校長)

平成23年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会札幌大会について

1. 日 時 平成23年6月18日(土)
総 会 16:00～ 大懇親会 17:30～

2. 場 所 札幌パークホテル 地下2階「パークプラザ」
札幌市中央区南10条西3丁目 TEL 011-511-3131

3. 会 費 6,500円

4. 申し込みについて(一般会員・前納会員の皆様)

(1) 案内状の発送

平成22年12月下旬～平成23年1月

(2) 申し込み方法

一般会員・・・支会でとりまとめて支部へ申し込んでください。

前納会員・・・支部へ申し込んでください。

(3) 「案内」から「申し込み」までの流れ

本部から案内 → 各支部 → 一般・前納会員 → 支部でとりまとめ → 本部

(4) 申し込み締め切り

平成23年2月28日(月)

5. 問い合わせ先

夕陽会本部事務局 庶務部長 檜山 聡(ならやま さとし)

〒041-0806 函館市美原3丁目48番6号 北海道教育大学附属函館小学校内

TEL 0138-34-5520 FAX 0138-47-7376

メールアドレス nara3104@hak.hokkyodai.ac.jp

6. その他

ご来賓、顧問・参与、各支部長につきましては、平成23年4月下旬に本部から直接ご案内いたします。



青森南部支部だより

青森南部支部長 岩間 和章
(昭和50年卒 五戸町立五戸小学校長)

縁あって支部長を仰せつかってから五年になりました。

今年も五回目の「総会」なるものを、八月三日に八戸市内で行うことができました。なぜ「なるもの」かと言うと、毎年大体同じような少数メンバーが一年に一回「居酒屋」に集まり、会費を集め、役員を決め、一杯飲みながら近況報告をし合う場となっているからなのです。とは言え、この会合の時間は、函館の懐かしい話から学生時代に戻ったり、職場の様々な話、市内(それなりにマチ)の様子や郡部(それなりにイナカ)の様子などが情報交換され、人間関係上、それぞれが普段の「飲み会」では話せないようなことも語られ、ストレスの発散にもなったりしているようです。

さて、こんなにも「イイ飲み会」なものもつたいない。「次はもう少し声をかけて参加者を増やしましょう」といつも話には出るのが、いざ「当日」になると、「いつもと同じ」を繰り返してしまいます。

なぜでしょうか。毎年、この会合の日程を決める時に、幹事長さんから電話を戴きます。せっかくですから、ゆつくり飲めるようにと次の日が休日の日を探し、よくもまあ、こんなにもいろいろな会合や部活動の大会等があるものと言うく

らい、日にちがふさがっているのです。私ひとりでも大変なのに、大勢の会員の日程なんて、なかなかうまく合いません。裏を返せば、教員は忙しすぎます。いつも疲れています。なんとかならないものでしょうか……。本当を言えば「忙しくても行きたい会合」にできればいいのですが、そんな魅力を造れないでいます。来年度は、常連組で声を掛け合って何とかもう少し多くの「夕陽の仲間」を集めたいと思っています。

ところで、今年の十二月四日は何の日かご存知でしょうか？実は東北新幹線青森開業の日なのです。

私たちの「青森南部支部」は、現在終点の「八戸駅」に近い場所の支部であり、この開業によって一番影響を受けるのは「小学校の修学旅行」ではないかと思えます。ほとんどの学校の行き先は函館方面です。今までは、八戸駅から在来線の特急で約三時間。函館までの直行の学校が多かったのですが、今度は新幹線を利用して新青森まで約三十分、さらに、在来線特急に乗り換えて約二時間です。乗り換えの時間をたすと時間的なメリットはありません。旅費は上がるでしょう。数年後には、新幹線が函館まで開業するようです。そうなれば一時間半くらいです。函館方面からたくさん修学旅行が来てくれることを期待しています。



小樽支部便り

小樽支部長 内山 哲男
(昭和51年卒 小樽市立幸小学校長)

道内の都市で小樽と一番似ているのは函館であると言われます。港を軸にした商業が街づくりの基本であった事に由来すると思われまます。

蝦夷共和国を目指し、五稜郭の戦いを経て、その後明治政府で活躍した榎本武揚が、小樽発展の礎に深く関わっているという縁もあります。

「臥牛の峰のそれごと 雄々しく立てるわが健児」これは寮歌の一節です。うちなる臥牛を自覚めさせ、牛歩であっても、確実に結果を残して行こうと活動している夕陽会小樽支部です。

会員数は、現職会員百八名、退職会員七十名 計百七十八名(十月現在)です。本部や関係機関と十分連携を保ち、一層の組織強化と運営の効率化を図ることを基本として活動しています。

今春五月には、本部長の橋田恭一様をお迎えし、小樽市・教育長菊 謙様をはじめ多くのご来賓の出席を賜り、総会及び懇親会が六十名をこえる参加者で盛会のうちに終了することができました。

活動の重点に、(一)会員の組織強化と円滑な運営 (二)研修活動の促進 (三)他団体・関係機関との連携を決定しました。

今年の一月、原子 修氏(夕陽会先輩 詩人札幌大学名誉教授)にご講演をいただいたおり、故郷(ふるさと)とは・生

まれの故郷・育ちに郷(さと)・暮らしの郷(さと)があり、それは心の支えとなるものであるとお話されました。

研修では暮らしの郷「小樽」を積極的に取り上げ、会員相互のつながりを深め、教職員以外の同窓の方との接点づくりができないかを考えています。また、夕陽会員にとって、母校のある函館はまさに育ちの郷であります。友と過ごした土地には、格別の思いが湧くものです。遠く離れても、会員が集まると函館の話して盛り上がりまます。来年六月の本部総会が十年振りに札幌で開催されます。道央ブロックの支部として、多くの世代の会員が参加するように呼びかけをはじめまます。

小樽支部の課題としては現職会員の会費納入促進です。そのためには、会報の回数を増やし、活動内容を知ってもらおうと共に、研修会に参加しやすい手立てをとり、現役会員同士のつながりを少しでも深めなければなりません。一人でも多くの現職会員の納入者を増やすと共に、研修活動の一層の充実が必要であると考えています。

会員の親睦と資質向上を、念頭におき、役員一丸となり組織強化に取り組む所存です。今後とも本部ならびに、全道、全国各地の支部、会員の皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願いいたします。

支部だより

前納会費納入会員名簿追加分

Table listing members and their details, including names like 井上松博, 落合マサエ, etc., and their respective addresses and dates.

夕陽會員計報

Main table listing members and their details, including names like 田中 貢氏, 札幌市北区太平7の7の10の7, etc., and their respective addresses and dates.

前納会費制度の利用の仕組み

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

- ①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈
③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により異なっております。

- ①大正年代の卒業生 五千円
②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万円
③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円
④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みませす。
なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報二〇二号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。
◆今号の表紙は「箱館奉行所と五稜郭タワー」が夕闇に映える様子の写真です。五稜郭タワーの展望台から五稜郭を見てから、箱館奉行所を見学するコースが大変評判で、観光客だけではなく、函館の人々にも大変人気のコースになってきております。

箱館奉行所の復元工事は、宮大工・瓦・左官・建具・漆塗・鋳金物など、専門的技術を持つ職人の手で、可能な限り当時と同じ資材・工法により進められました。箱館奉行所外壁の彫子下見板は、生漆塗りや渋墨塗りで仕上げられ、南側の庭を囲む丸太柵や笠木板塀などにも和建築の伝統が感じられます。

是非、函館にお越しの際は、このコースを回っていただくことをおすすめいたします。
◆各支部での研修会やブロックでの活動が盛んになってきております。
開催を予定されている支部あるいは、ブロック等は本部事務局に早めに連絡をお願いいたします。

(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(011338) 46-22235
夕陽会専用(011338) 34-55220
FAX番号(011338) 47-73776

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)

